

ミニデイ【おとこの台所 桜新町だより】

発行責任者 桜新町広報：石井利男、岡元正史

新年、明けましておめでとうございます。

今年は辰（たつ）の年。

十二支のなかで、龍は唯一の想像上の動物です。
昇り竜のような良い年でありますよう。



●「オランダ正月」

江戸時代に長崎・出島のオランダ人たちや、江戸の蘭学者たちによって行われた太陽暦（西暦＝グレゴリオ暦）の元旦を祝う宴です。「赤毛正月」とも言われていました。

●慶長7（1615）年、江戸幕府は「キリスト教禁教令」を出します。

長崎・出島に出入りするオランダ人たちは、禁教令によりクリスマス（キリストの降誕祭）を表立って祝うことができなくなります。そこでオランダ人たちは日本の正月の祝いをまねて太陽暦（西暦）の元旦に、出島勤めの幕府役人やオランダ通詞たち、出島乙名（町役人）など日本人を招いて西洋料理を振る舞い、オランダ式の祝宴を催して、これを長崎の人々は「阿蘭陀（オランダ）正月」と呼びました。文政年間の「長崎名勝絵図」には献立が記されており、牛、豚、アヒルなどの肉料理やハム、魚バター煮＝ムニエル、ケーキ類、コーヒーなどが饗されていました。

●「オランダ正月」はやがて江戸に伝わり、高名な蘭学者の大槻玄沢は、寛政6（1794）年11月11日が西暦の1795年1月1日にあたることから自塾の「芝蘭堂」で「新元会」（元旦の祝宴）を開きます。これが江戸での「オランダ正月」の始まりとなりました。（右＝「芝蘭堂新元会図」）

●オランダ通詞（通事、通辞、通弁とも書き、出島役人とも呼ばれました）。

通詞とは江戸幕府の世襲の役人で、公式の通訳や貿易事務を行ないました。もとはポルトガルとの南蛮貿易に始まり、やがてオランダ貿易や中国貿易に携わるオランダ通詞と唐通詞がいました。

オランダ通詞は「蘭学」が学問の主流になると、オランダの書籍の翻訳を行って、「物質」「分子」「真空」「動力」「弾力」「加速」「遠心力」「楕円」「惑星」など、いまでは普通に使われている単語を造語（日本語化）しました。



12月の定例会 参加者は、7日（木）15名、8日（金）12名でした。

1月の定例会 12日（金）、17日（水）。変則な日程なので、ご注意ください。